

新しい学年になって2か月ほど経ちました。子どもたちは新しい学級に慣れてきた様子ですが、疲れが出てくる時期でもあります。ご家庭でのお子さんの様子はいかがですか？生活点検では睡眠時間やテレビ・ゲームの時間についてお子さんにご相談いただくなど、ご協力ありがとうございました。毎月第2週目に行いますので、子どもたちが意欲的に生活習慣を正すことができるよう、引き続きご協力をお願いします。

コロナ禍の中で学校教育の ICT 化が進み、武庫庄小学校でもタブレットを使った学習が始まっています。子どもたちもタッチパネルを触ったり、キーボードを打ったりしながら、生き生きとした表情で学習に取り組んでいます。けれども、手書きをすることも脳の成長には大切だと言われています。学校でも、これまでの教育における大切な要素を失うことなく、新しい学びを取り入れていけるよう取り組んでいきたいと考えています。

いざ手で書くとなったら、みなさんは何を考えるでしょうか？

まずは「ボールペンで書こうか、筆で書こうか」などと考えて筆記用具を選びますよね。そして、「紙全体に大きく書こうか、太く書こうか、紙の端に小さくかわいらしく書こうか」というように、絶えず考えながら書く。もちろん、指を使うにも、キーボードを叩くより、手書きのほうが、より細かい作業が求められます。

つまり、手書きのほうが、脳をそれだけたくさん使うことになる。ですから、「手書きが脳にいい」ことは当たり前なのです。

脳神経内科・認知症専門医 長谷川嘉哉 インタビューより
<https://studyhacker.net/yoshiya-hasegawa-interview-01>

ONE 学習に集中するための 武庫庄っ子 筆箱のポイント

子どもたちには、自分に合った用具を使って、集中して学習してもらいたいです。遊びの要素がある鉛筆や消しゴム、飾りや香りがついているものなど、いろいろな文具が販売されており、お子さんが興味を持たれるかもしれませんが、学習の妨げになりますので、ご家庭で使わせていただくなどして、学校に持っていく文具はできるだけシンプルな使いやすいものを選んでいただきますよう、ご協力お願い致します。

鉛筆

- *濃さ 低学年・・・2B～6B 中学年以上・・・B・HB～6B
- *本数 5本
- *前日に家で削っておく
- *赤鉛筆（赤ボールペン）

消しゴム

よく消える柔らかいものを1つ

ものさし

15cm程度で、目盛りが読みやすくシンプルなもの

ネームペン1本

先が潰れたり、かすれたりしていないか、定期的に確認してください。